

「防空壕で叔母と姪が犠牲に」 富岡 せつさん

私は当時、小学校 6 年生で、木造町に疎開していました。7 月 28 日、配給のミルクを受け取りに行く叔母と、0 歳と 1 歳の姪に付き添い、4 人で汽車に乗り青森市へ帰りました。

夕方、青森市へ着いたら、父が「なぜ来た、今日は危険な日だ」と言い、叔母と姪を菫町の実家に送って行きました。

私は本町（寺町）の実家で夕食をとり、寝ましたが、突然空襲警報が鳴って空襲が始まったのです。父と中学 2 年生の兄と 3 人で正覚寺に走り、水が湧き出る防空壕に入りました。入り口を布団で塞ぎ、布団に水をかけて助かりました。火が収まり、夜が明けてから外を見ると、周りの建物は全て焼け落ちて、蔵と蓮華寺だけが残って、あちこちに死体が転がっていました。父は「後で思い出すので見るな」と言いました。

叔母が心配で、父と家を尋ねると、防空壕に避難した叔母と姪は、焼夷弾の直撃で亡くなっていました。防空壕に入れず橋の下に避難したおばあちゃんだけが助かり、「娘と孫の身代わりになりたい」と嘆いていました。

戦争は嫌です。二度とこんな悲惨な体験はしたくありません。